

(2) スポーツ振興について

1 プロスポーツを活用した滋賀の魅力発信進事業

プロスポーツの持つ集客力や全国発信力を滋賀の魅力を広く伝えるツールとして位置付け、プロバスケットボールBリーグ所属「滋賀レイクスターズ」と連携し、滋賀の魅力を発信し、地域活性化につなげる。

(1) スポンサーシップによる滋賀のブランド発信

滋賀レイクスターズのスポンサーとして、ユニフォームに滋賀県のロゴの掲示枠を確保し、シーズンを通じて全国的な発信につなげる。

(2) アウェーゲームでの滋賀の魅力発信

アウェーゲームにおいて、ブース出展等により滋賀の観光PR等を実施し、滋賀の魅力を発信する。〈H29 実績 豊川市、宇都宮市、立川市、川崎市で実施〉

2 東京オリンピック・パラリンピックスポーツ交流創出事業

東京オリンピック・パラリンピックに向け、ホストタウン相手国との交流事業の実施や事前合宿の誘致等、同大会のフラッグツアー・聖火リレーを通じて、国内外からの来訪者と県民との交流を創出する。

(1) ホストタウンを活用した交流推進

県内のホストタウン登録状況および主な取組

登録日	登録団体	相手国	競技	今年度の主な取組
H28. 6. 14	滋賀県・大津市	デンマーク	ボート	ボート競技大会の選手招待等による交流事業
H28. 6. 14	米原市・滋賀県	ニュージーランド	ホッケー	ニュージーランド代表チームと日本代表チームとの強化試合と地元との交流事業（7月）

登録日	登録団体	相手国	競技	今年度の主な取組
H28. 12. 9	守山市・ 滋賀県	トルコ	ゴールボール 視覚障害者柔道	・トルコ、ロシア、中国代表チームと日本代表チームとの合同合宿および地元小学生との交流事業（5月） ・ゴールボールおよび視覚障害者柔道の事前合宿に関する覚書締結（5月）
H30. 4. 27	滋賀県・ 甲賀市	シンガポール	パラスポーツ	障害者スポーツを通じた交流事業を予定

(2) 東京オリンピック・パラリンピックフラッグツアー開催

東京オリンピック・パラリンピックの開催機運醸成のため、オリンピック・パラリンピックフラッグの全国巡回を実施。本県にフラッグが滞在する平成30年12月29日から平成31年2月1日までの間に歓迎イベント、フラッグ展示等を行う予定。

(3) 東京オリンピック聖火リレー開催準備

東京オリンピック聖火リレー開催に向けて、組織委員会と連携し準備を進める。今年度、各都道府県では、実行委員会を設置し、ルート選定、セレブレーション会場の選定、ランナー公募・選考準備を行う予定。

3 スポーツボランティア支援事業

ワールドマスタースゲームズ2021 関西を視野に入れ、幅広い分野での資質を持ったボランティアの確保と育成、イベント等での活動機会の増加に取り組む。

これまで県が主体となって進めてきたボランティア登録について、多くの顧客や企業とのつながり、会員組織運営のノウハウ、実践的な活動機会を有するスポーツクラブ等に委託することで効果的な事業展開を図る。

目標登録者数	H30 年度	1,000 人	
	H31 年度	1,500 人	
	H32 年度	2,000 人	(H29 年度末 581 人)

4 ワールドマスターズゲームズ 2021 関西

(1) 本県での開催競技

平成 30 年 4 月 16 日の I M G A（国際マスターズゲームズ協会）総会の承認を受けて、全 34 競技 58 種目の開催が決定。このうち、現時点での本県の開催競技は下記のとおり。

○公式競技

競技名	会場地		参加 想定人数
	市町名	施設名等(予定)	
陸上競技 (10kmロードレース)	彦根市	彦根城周辺等	900
カヌー (ドラゴンボート)	大津市	琵琶湖モーターボート競走場	2,000
ホッケー	米原市	県立伊吹運動場	600
	長浜市	長浜バイオ大学ドーム	
ボート	大津市	県立琵琶湖漕艇場	2,000
ソフトボール	草津市	草津グリーンスタジアム、矢橋帰帆島公園	2,500
	守山市	守山市民運動公園	
	東近江市	布引グリーンスタジアム、長山公園	
軟式野球	守山市	守山市民球場	1,100
	東近江市	湖東スタジアム、おくのの運動公園、長山公園	
		計	9,100

○オープン競技

競技名	会場地		参加 想定人数
	市町名	施設名等(予定)	
パドルテニス	守山市	守山市民体育館	400
トレイルランニング	高島市	グリーンパーク想い出の森	1,000

(2) 今後の取組について

県内における大会運営について、大会組織委員会、関係市や競技団体、経済団体で構成する「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西・滋賀実行委員会」等において必要な準備・検討を進める。

○平成 30 年度中の主な取組

- ・開催市実行委員会の設置
- ・大会受付会場および交流の場の設置場所の検討・調整
- ・輸送および宿泊計画の作成
- ・競技別実施要項および競技関係計画の作成等

5 スポーツ施設の整備について

県立スポーツ施設については、2014 年度に実施した「県立社会体育施設の最適な管理についての調査研究」の結果を踏まえつつ、2024 年開催の国民体育大会・全国障害者スポーツ大会での活用はもとより、本県のスポーツ振興や県民の健康づくりに資するよう、各施設の整備を進めていくこととする。

(1) (仮称) 彦根総合運動公園

(仮称) 彦根総合運動公園は、両大会の主会場はもとより、将来のスポーツ振興やスポーツを通じた健康増進、地域の活性化のための施設として整備を進めており、今後も2023 年度の完成を目指し着実に整備に取り組む。

【整備スケジュール】

項目 \ 年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35)	2024 (H36)
公園敷地の拡張							供用開始 ↓ リハ－サル大会開催	第24回 国民体育大会開催
既存施設解体 (スポーツ会館、プール、庭球場等)								
公園等整備 (基盤工事、地盤対策工事)								
(第3種陸上競技場)								
(緑の広場、エントランス広場、 交流広場、第1種外構など)								
建築施設計画設計 (第1種陸上競技場)	 基本設計		 実施設計					
建築施設工事 (第1種陸上競技場)								

【事業費】

約 200 億円：

(第1種陸上競技場：約 106 億円、その他公園整備費、用地補償等：約 94 億円)

【主な施設概要】

区分	概要
第1種陸上競技場	収容人員:15,000人以上 構造:鉄筋コンクリート造5階建て トラック:400m×9レーン フィールド:106m×69m
第3種陸上競技場	管理棟 トラック:400m×8レーン
庭球場	12面、夜間照明灯設置
野球場	(存置)
エントランス広場・緑の広場	休憩所、便所、植栽など
駐車場	約1,100台
駐輪場	約380台

(2) 新県立体育館

両大会の開催を契機として、スポーツ・健康づくりの拠点整備を目指し、老朽化が進み、施設が狭隘となっている現体育館（ウカルちゃんアリーナ）を、びわこ文化公園都市内に移設整備する。また、整備・運営にあたっては、県民サービスの向上や財政支出の軽減・平準化など高い効果が期待できるPFI方式による事業実施に向け取組を進める。

現在、PFI方式による事業実施に向けた手続を進めており、本年2月に公表した業務要求水準書（案）に県内経済への配慮や県産材の使用等に関して盛り込んでいるところ。

なお、用地造成に関しては、県が工事を実施することとしており設計等に取り組んでいる。

【整備スケジュール】

年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35) (リハーサル大会)	2024 (H36) (国体等開催)
造成工事 (県)		基本設計	実施設計	造成工事				
PFI事業		PFI事業 公募・選定 契約	PFI事業 公募・選定 契約	PFI事業 (設計)	PFI事業 (建設)	PFI事業 (建設)	PFI事業 (維持管理・建設)	

【事業費（新県立体育館施設整備基本計画（平成29年3月））】

整備費：約94億円

（建設工事費：約74億円、基盤造成費：約12億円、調査設計用地取得等：約8億円）

維持管理運営費：約2.2億円/年

【施設概要】

区分	概要
メインアリーナ	面積 2,760 m ² (69m×40m) 以上、高さ 14m 以上 総観客席数 5,000 席以上 (1階観客席 2,500 席以上 : 電動式の壁収納型可動席 1,600 席以上+椅子による仮設席) (2階観客席 2,500 席以上)
サブアリーナ	面積 1,161 m ² (27m×43m) 以上、高さ 12m 以上 観客席 200 席以上
スポーツ活動諸室	多目的室、トレーニング室、スポーツ・体力測定室
その他諸室	事務室(施設管理室)、応接室(来賓室)、医務室、放送・音響・調光室、キッズルーム・授乳室、競技団体交流室、レストラン・カフェ等
共用部を含む上記面積の合計: 14,000 m ² 程度	
駐車場	・駐車場: 常設駐車場・臨時駐車場合わせて 900 台以上 ・駐輪場: 200 台以上
多目的広場	・気軽に運動やトレーニングができ、多様なイベントへの対応、防災面でも活用できる多目的広場。 ・イベント開催時は臨時駐車場としても利用。

(3) プール

(仮称)彦根総合運動公園の整備に伴い廃止される県立スイミングセンターの代替となるプールの整備については、施設運営や財政負担の観点から、市町との連携により施設を整備するという方針のもと、新たに市立プールを整備する草津市に対して、財政支援を行うこととした。

現在は、草津市とともに、基本計画の策定を行っており、本県の水泳競技の活動拠点や県立スイミングセンターの代替となる施設として、また、2023 年度国体等リハーサル大会を目指して着実に整備を進めていく。

(4) 琵琶湖漕艇場

琵琶湖漕艇場は、本県のボート競技およびカヌー競技活動の中心施設として重要な役割を果たしてきた一方、施設開設後 47 年が経過し、管理棟や艇庫をはじめとする施設の老朽化、コース利用における安全対策などの様々な課題が顕在化している。

このため、利用者の利便性・安全性の向上や競技会場としての機能強化を図るべく、管理棟・艇庫の改築およびコース改修を実施することとし、本年度は、これらに係る設計に取り組む。

【整備スケジュール】

	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)
基本設計・実施設計	➡		
管理棟・艇庫改築工事		➡	
コース改修工事		➡	

【事業費】

整備費：約 10 億円

(改築費：約 7.2 億円、コース改修費：約 2.3 億円、設計費等：約 0.5 億円)

【整備概要】

区分	概要
管理棟・艇庫改築	・鉄骨造 2 階建て（一部 3 階建て）、延床面積 1,300 m²程度 ・エレベーター、トレーニング室設置 ・艇庫拡大（403.2 m² → 600 m²程度） ・艇庫前部分のデッキ改修
コース	・コース全体を北へ移設 ・消波対策を実施

(5) 長浜バイオ大学ドーム

ワールドマスタースゲームズ 2021 関西大会において、ホッケー競技会場として活用することから、老朽化が進んでいる人工芝の張替を実施する。

【事業費】

整備費：約 1.8 億円

(工事費：約 1.7 億円、設計費：約 0.1 億円)

【整備スケジュール】

	2018 (H30)	2019 (H31)
実施設計	➡	
人工芝張替工事		➡ (時期未定)

【整備概要】

人工芝張替 (8,880 m²)

(6) 伊吹運動場

オリンピック事前合宿、ワールドマスタースゲームズ 2021 関西大会および国民体育大会・全国障害者スポーツ大会において、ホッケー競技会場として活用することから、老朽化が進んでいる人工芝の張替や散水・照明設備の改修を実施する。

【事業費】

整備費：約 3.8 億円

(工事費：約 3.7 億円、設計費：約 0.1 億円)

【整備スケジュール】

	2018 (H30)	2019 (H31)
実施設計	➡	
照明設備改修工事	➡	
人工芝張替・散水設備改修工事		➡

【整備概要】

人工芝張替 (6,973 m²)、散水設備改修 (4 基)、照明設備改修 (2 基→8 基)

(仮称) 彦根総合運動公園 第1種陸上競技場建築基本設計の概要

4. 環境負荷の削減を図る競技場

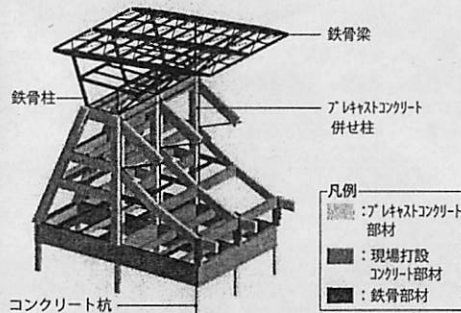
- ①遮光・防音壁により近隣の住環境負荷（光漏れ、音漏れ）を低減
- ②観客席、フィールド用のスピーカーを分散配置することにより、周囲への音漏れを低減
- ③屋根の雨水を集水しフィールドの芝生散水に活用
- ④風の流れを考慮した自然換気を採用
- ⑤競技用照明を含め、すべての照明にLED器具を用い省エネを図る
- ⑥工事残土は緑の丘の盛土に活用し、場外搬出を削減



近隣の住環境に配慮した外観イメージ

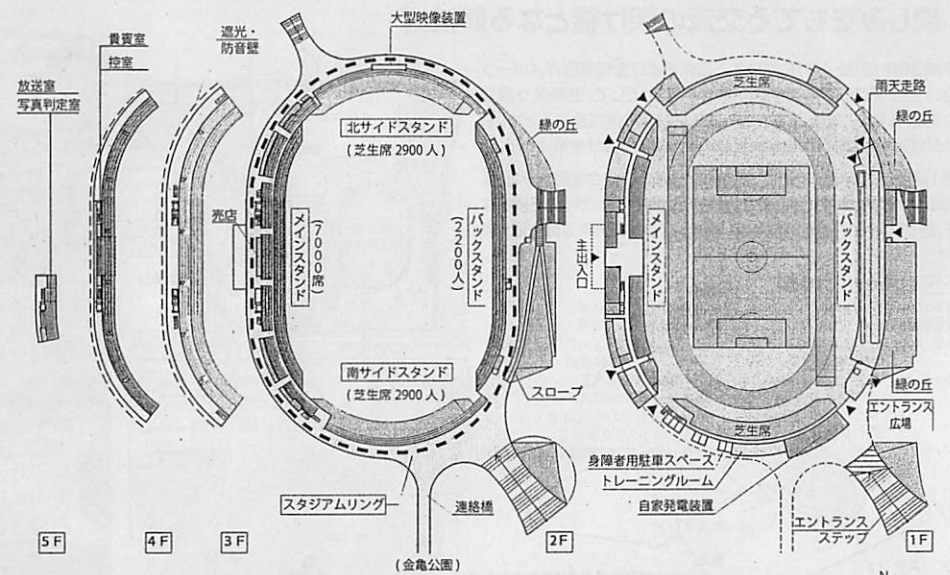
5. 安全で安心な競技場

- ①地震発生時に防災拠点として機能するよう必要な耐震性を確保
- ②杭は安全性とコストバランスを考慮し、コンクリート杭とする
- ③災害時の緊急輸送機能や避難施設としての機能を確保
- ④万が一の災害に備え、自家発電装置を設置
- ⑤フィールドは災害時にヘリポートとして利用可能
- ⑥発災時には雨水をトイレ洗浄水等に活用

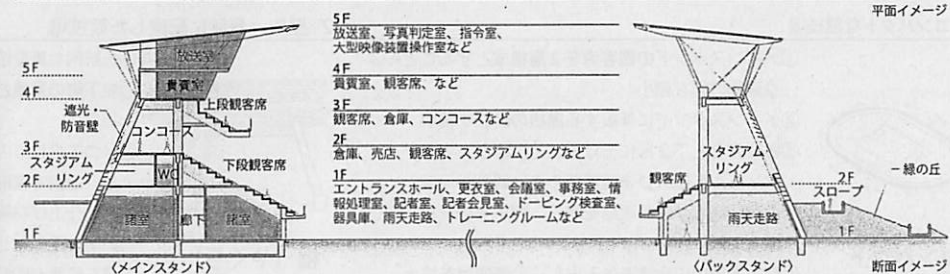


メインスタンド架構イメージ

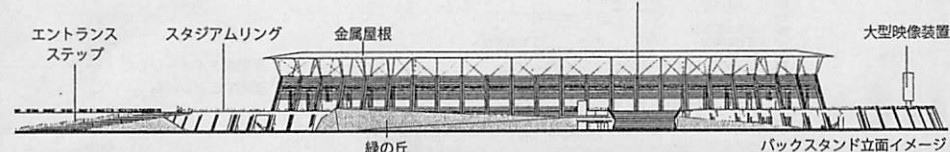
各階平面・断面・立面イメージ



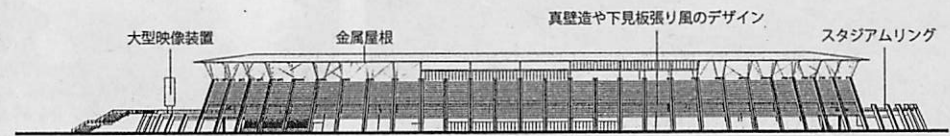
凡例 (諸室) 大会関係諸室 観客席等 更衣・トレーニングルーム 用具室・倉庫 階段・EV WC・その他



「櫓」をイメージした構成



バックスタンド立面イメージ



メインスタンド立面イメージ

イメージパース



彦根城天守からの眺め：周囲を樹木で囲った景観に調和した競技場

スケジュール

項目 \ 年度	2014年度 (10年前)	2015年度 (9年前)	2016年度 (8年前)	2017年度 (7年前)	2018年度 (6年前)	2019年度 (5年前)	2020年度 (4年前)	2021年度 (3年前)	2022年度 (2年前)	2023年度 (1年前)	2024年度 (開業年)
都市公園設計計画 (基本構想・基本計画)		基本構想・基本計画	基本設計	実施設計							
建築施設設計計画 (第1種陸上競技場)		基本設計条件検討	基本設計	実施設計							
建築施設工事 (第1種陸上競技場)											

これらの図およびイメージ等は基本設計時点のものであり、この後に行う実施設計で変更になる場合がある。

滋賀の歴史文化を継承し、 親しみをもてる交流の架け橋となる競技場

平成36年(2024年)に開催する国体および全国障害者スポーツ大会の主会場(開・閉会式と陸上競技の会場)として、滋賀県彦根総合運動場を第1種陸上競技場を備えた公園に再整備するため、平成28年9月に(仮称)彦根総合運動公園整備基本設計を策定した。

第1種陸上競技場について、各種設計条件との整合を図りつつ、彦根城の世界遺産登録に向けた取組や防災機能の強化等に配慮しながら、建物の形状や施設構成など、骨格となる建築基本設計を取りまとめた。

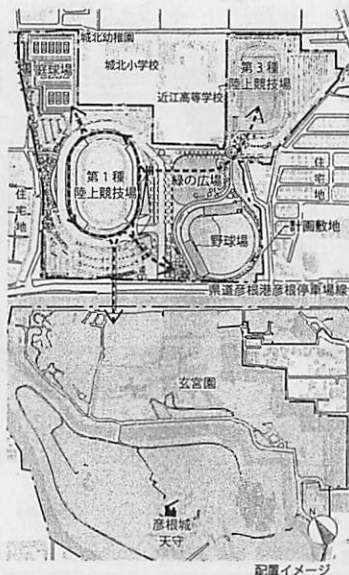
第1種陸上競技場の計画概要

トラック・フィールド
整備面積：約3.9ha
トラック：400m×9レーン
(全天候舗装)
フィールド：106m×69m
(天然芝、サッカー
やラグビー等多目的に
利用可能)

建物
建築面積：18,500㎡
延べ床面積：21,500㎡
構造：鉄筋コンクリート造
一部鉄骨造
規模：5階建て
最高高さ：24m程度
収容人員：15,000人以上
メインスタンド：7,000席程度
(北サイドに大型映像装置を設置)

敷地
所在地：滋賀県彦根市松原町3028
面積：21.8ha

バックスタンド
メインスタンド



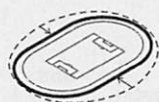
配置イメージ



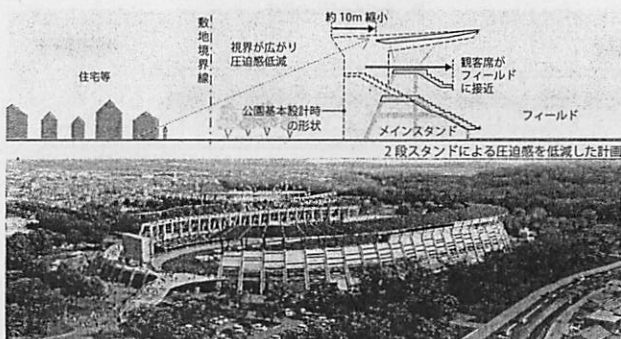
第1種陸上競技場全体イメージ

1. コンパクトな競技場

- ①メインスタンドの観客席を2層構成とすることにより建物の幅を縮小
- ②メインスタンドに架設する屋根の範囲を縮小
- ③観客席を上下2段に分けることにより、客席がフィールドに近づき臨場感の高い観戦が可能
- ④西側住宅地からの距離を離し、樹木を植栽して圧迫感を低減
- ⑤競技場周辺に余裕を生み出し、公園空間を拡大



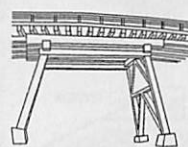
コンパクト



西側住宅地から：建物のコンパクト化により周囲の緑地面積の確保

2. 歴史、景観に配慮した競技場

- ①伝統的な真壁造や下見板張り風のデザインを採用
- ②城下町の景観と調和した、落ち着いたある色調を採用
- ③かつての松原内湖にあった百間橋をモチーフにし、連続で櫓形状に構成する柱と梁を採用
- ④内装仕上げ材等に県産木材を利用
- ⑤照明を目立たせないよう、屋根先端下部に照明設備を設置(照明柱を設置しない)



櫓(やぐら)



エントランス広場から：公園と第1種陸上競技場をつなぐ「緑の丘」と「大階段」

3. 周囲を自由に回遊できる競技場

- ①2階レベルに回遊できる歩道空間(スタジアムリング)を設置
- ②4カ所の屋外階段とスロープを設け、スタジアム内外のアクセスを向上
- ③スタジアムリングは公園内の各施設を円滑につなぎ、連絡橋により彦根城等との動線を確保
- ④スタジアムリングにより、各スタンドに段差なく行けるようバリアフリーに配慮



つなぐ



敷地北側から：スタジアムリングを中心に周囲を自由に回遊できる競技場

(2) スポーツ振興について

次代を担う子どもの運動・スポーツ活動の充実について

1. 目標

すべての子どもが、将来自ら進んで楽しみながらスポーツに取り組めるよう、学校において子どもの運動・スポーツ活動を充実し、基礎を培う取組を推進する。

- (1) 幼児期からの運動(遊び)・スポーツ活動の充実
- (2) 体育・保健体育の授業の充実
- (3) 運動部活動の活性化

2. 主な取組

① 幼児期の運動遊び促進事業

幼児の運動能力等調査により実態を把握し、幼児期運動指針に基づいた運動遊びを推進する。また、指導者研修会の実施や実践事例集による運動遊びの促進を図る。

② 子どもの体力向上推進事業

子どもの体力向上に係る課題や方策を共有し、子どもに運動・スポーツへの関心・興味を喚起するとともに、運動機会の充実を図る。

(アスリート招聘、特別支援学校運動機会充実促進事業、健やかタイム、チャレンジランキング)

③ 体育教員の資質向上・指導力強化事業

運動好きの子どもを育成するために、運動量を確保しながら子どもをやる気にさせる授業改善と教員の資質向上・授業力強化を図る。

(授業協力者派遣、授業力アップ研修会、体育実技研修、授業研究)

④ 部活動指導員配置促進事業

専門的な指導の不安を抱える教員の支援と指導力の向上、生徒の意欲や技能を身につけることを目的として、技術的な指導に従事する部活動指導員の配置を進める。(H30 年度 中学校:20 名程度)

また、高等学校においては4校にモデル事業を実施する。

⑤ 運動部活動人材活用事業

専門的技能や適切な運動部活動指導の知識を持つ外部指導者（地域スポーツ指導者・退職教員）を学校に派遣することにより運動部活動の支援を行う。
（H30 年度 中学校・高等学校 計 20 人）

⑥ 運動部活動指導者スキルアップ事業

科学的で適切な運動部活動の指導ができる指導者を育成する。また、生徒の自主性や主体性を引き出すとともに、体罰防止や安全面について指導力の向上を図る。（研修会を年 2 回実施）

⑦ 中体連・高体連活動振興事業

中学校体育連盟が、春季総体、夏季総体、秋季総体を開催し、高等学校体育連盟が、春季総体、秋季総体を開催する。また、近畿・全国大会へ選手を派遣する。

⑧ 全国中学校駅伝大会開催事業

平成 28 年度から平成 32 年度まで 5 年間、滋賀県希望が丘文化公園において全国中学校駅伝大会を開催する。